

宮古恵風支援学校

研究テーマ

「児童生徒が意欲的・主体的に活動する授業づくり」
～授業づくりシートや授業充実観点表の活用を
通して～（二次研究二年目）

1 全体研究

(1) 主題設定の理由

前次研究のまとめから示された現状や課題、本校職員の授業づくりに関する考えかたを基盤として実践を行う。そのためのツールとして、《授業づくりシート》や《授業充実観点表》を活用し、その妥当性や有用性について検証し、同時に新学習指導要領の授業充実・改善の視点を取り入れながら研究主題に迫るものである。

(2) 研究仮説

- ① 《授業づくりシート》や《授業充実観点表》の活用は、授業づくりにおける道筋や観点が明確化され、児童生徒が意欲的・主体的に活動する授業づくりにつながるのではないかと。
- ② 《授業づくりシート》や《授業充実観点表》の活用は、教師一人ひとりの授業実践が可視化され、教師間の連携や実践の充実、意識の高まり、専門性の向上につながるのではないかと。

(3) 研究の内容・方法（二次）

- ① 一年次の実践を受けて各学部で作成した《授業づくりシート》を活用した授業実践を行う。
- ② 《授業充実観点表》の在り方について検討する。
- ③ 実践を積み重ね研究仮説について検証する。
- ④ 研究の成果と課題をまとめ、研究集録を発行する。

2 各学部の実践

(1) 小学部

一年次の取組を継続する形で、《授業づくりシート》の作成、職員間の回覧と記入をし、合わせて、より児童が意欲的・主体的に活動できる授業づくりに取り組んできた。T1・T2が共有フォルダ上で作成したシートを、授業日前に授業に入る職員に配付する。授業後にはシート

を二度回覧し、良かった点や改良案を記入した上で、確認し合っている。授業のアイデアが多く出されるなど、多角的視点で授業づくりができています。また、評価に至るまでの手立てやそれに伴う児童の変化が可視化され、次の授業内容や目標をスムーズに設定することができています。

(2) 中学部

一年次の研究を受け、《集団用授業づくりシート》を作成した。様式は略案を兼ねたもので、指導上の留意点に《授業充実観点表》の項目を記号で示した。授業後に授業者に回覧して生徒の様子や次の授業に向けた手立て等を記入し、さらに記入後に再度回覧することで情報の共有を図っている。

(3) 高等部

作業学習と自立活動の授業を中心に研究実践を行っている。一年次から個人用のシートを活用していたが、7月に行われた全体研究日に出された意見を受け、8月から新しく授業展開と集団の2種類のシートを作成し、実践を行っている。研究日に各グループ内で生徒の様子の変化や次の授業に向けた手立ての改善やねらい等について話し合い、情報の共有を図っている。

3 講演会

演題：「ASD児童生徒の教育的ニーズの把握とその対応～授業の充実を中心に～」

講師：岩手大学教育学部

准教授 鈴木 恵太 氏

期日：令和元年8月5日(月)

参加者：67名

4 研修会

研修報告会（12月18日）

講師：本校職員

5 刊行物

平成30年・令和元年度研究集録

（CD-Rで発行する。）